

現況分析における顕著な変化に ついての説明書

教 育

平成22年6月

奈良女子大学

目 次

4. 大学院人間文化研究科	1
---------------	---

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 奈良女子大学

学部・研究科等名 大学院人間文化研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目: 「教育の実施体制」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名

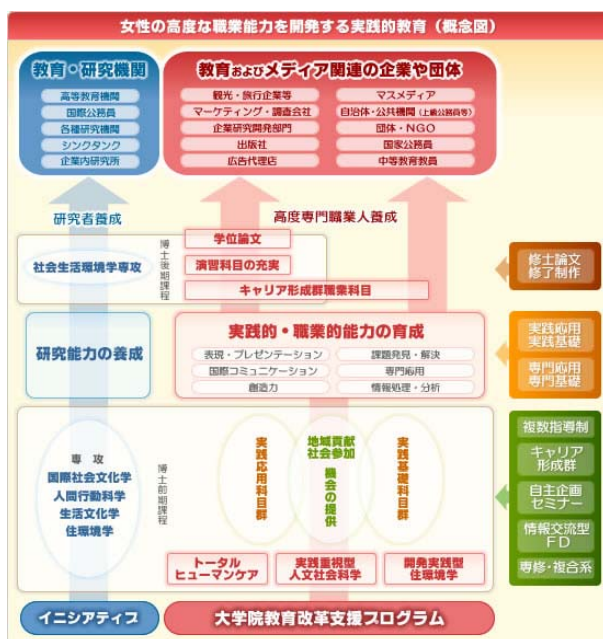
「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」

○顕著な変化の状況

平成 20 年度以降の顕著な変化として、先行した 2 件の教育プログラムの成果を踏まえて、その継続と発展を目指す 2 つの教育プログラム「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」および「理系の実践型女性科学者育成」が「大学院教育改革支援プログラム」(21 年度以降「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に名称変更)として 20 年度に採択され現在継続中である。

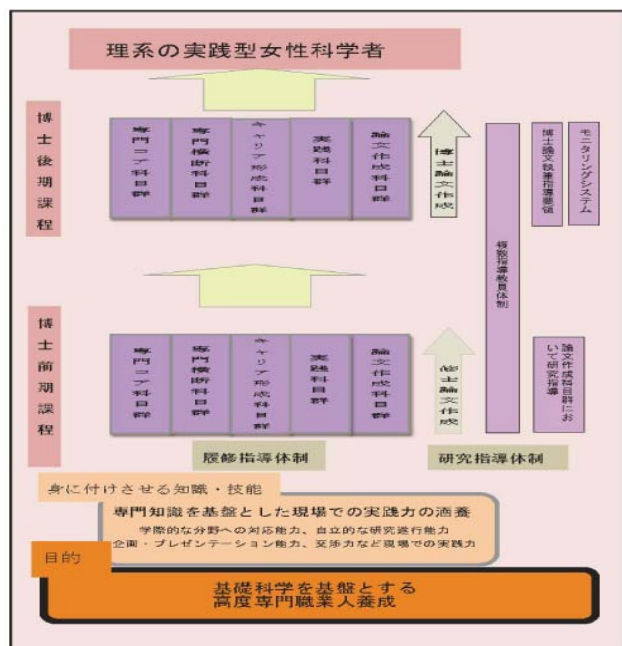
○顕著な変化と判断する理由

本学大学院人間文化研究科では「魅力ある大学院教育」イニシアティブとして、平成 17 年度に「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」(人社系)および平成 18 年度に「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」(理工農系)が採択され、「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」を整備してきた。本学のように 3 学部と 1 研究科の大学院からなる小規模大学に於いて、人社系および理工農系のそれぞれのカテゴリーで 2 件の「魅力ある大学院教育」イニシアティブに続き「大学院教育改革支援プログラム」が 2 件連続採択されたこと自体が特筆すべきことである。また、この採択は基本的に先行する 2 件の教育プログラムの実績が評価されたことが前提にあると推測される。また、これらの教育プログラムが目指す教育実施体制は社会の要請に適うものであり、本学大学院人間文化研究科では、第 1 期中期目標期間内に組織的・統合的な教育研究実施体制の構築を完了した。



女性の高度な職業能力を開発する実践的教育（概念図）。

(「平成 20 年度実施報告書および自己点検評価報告書」より転載)



「理系の実践型女性科学者育成」(概念図)。

(「平成 20 年度報告書」より転載)

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育研究)

法人名 奈良女子大学

学部・研究科等名 大学院人間文化研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : 「教育内容」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名: 「教育課程の編成」

○顕著な変化の状況

「大学院教育改革支援プログラム」(「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」(人社系)) 採択に伴う教育内容の充実。具体的には以下の通りである:

■総合的な実践的科目群の新設

本プログラムの基本的な特徴は、歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究カリキュラムに加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成した。具体的には、各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を新設、全面開講するとともに、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などの養成を図った。

1) 実践基礎群科目 (単位数: 1 または 2、科目数と内容: 専攻により多様な科目を 1 から 7 配置)

限定された課題や能力に関わる、比較的短期間で展開する実践基礎群科目を強化・新設し、技術・技能の開発・伝達を目指し、学生の実践的な関心に応えた。これらの授業は、専任教員のみでなく、専門的な職域で深い知識や豊かな経験と能力を発揮している社会人や本研究科修了者をゲストスピーカーとして招くなど、多彩に展開した。

2) 実践応用群科目 (単位数: 1、2 および 7、科目数と内容: 専攻により多様な科目を 1 から 4 配置)

従来の演習科目の内容を充実させ、あるいは新設して実践応用群科目を作り、1 年次の後半から 2 年次にかけての時期を中心に密度の濃い実践的学習を行った。この科目群では、現地調査やフィールドワーク、制作実習など、座学では得られない実践的かつ専門的能力の向上を目指した。

■イニシアティブ授業の継承発展

高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の 2 つの科目群について各々の授業の改善を図った。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を充実させた。

○顕著な変化と判断する理由

この教育プログラムは 22 年度が最終年度であり、年度末には「魅力ある大学院教育」イニシアティブ以降の教育成果を自己点検評価し、信頼性の高い検証をすることになっている。従って、現時点で定量的な実績を挙げるのは控えるが、研究成果発表数(国際会議、国内外の学会・研究集会等)、国内外研究実習(共同研究者訪問、研究所訪問等)などから判断して教育研究の活性化が伺える。さらには、教育プログラムに対する学生アンケート結果からも、教育プログラムの取組に対するポジティブな評価を得ている。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 奈良女子大学

学部・研究科等名 大学院人間文化研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : 「教育方法」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名

「主体的な学習を促す取り組み」

○顕著な変化の状況

「大学院教育改革支援プログラム」(「理系の実践型女性科学者育成」(理工農系)) 採択に伴う教育内容の充実。具体的には以下の通りである：

■統合的教育課程の発展的編成 --- 総合的な実践的科目群の新設

先行した「魅力ある大学院教育」イニシアティブの教育プログラムの教育プログラム「先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成」(理工農系) 以来の本学大学院の統合的教育課程を基盤とし、専門知識や能力を実践の場で活用し幅広く社会で活躍できる理系の実践型女性科学者の育成のため、社会から求められる実践力をもつ高度な専門職業人の育成を目指す「実践科目群」(博士前期課程：2単位4科目、博士後期課程：2単位2科目)を新設、全面開講した。この統合的教育課程の発展的編成に基づき、複数指導教員による学位取得のプロセス管理、種々の教育研究支援策等を援用する形で理系の実践型女性科学者育成という教育目標の実質化を推進させた。

1) 実践科目群：実務能力の育成

双方向型インターンによる知識を実践に応用する能力向上：本学社会連携センターと連携し、大学でも派遣先での実務に関する研究ができる環境を設定し、教員がインターンの研究内容も関与できる形のインターン実習科目「双方向型インターン実習」、「企画インターン実習」により専門知識を実務に応用する能力の伸張を図った。

2) 実践科目群：グループワークによる表現力、交渉力の育成

従来の理論や実験結果から研究課題を発見することや未解決問題の新しいアプローチを探ることなどを課題とする「グループワーク演習」を開講し、表現力や交渉能力の伸張を図った。

■「魅力ある大学院教育」イニシアティブ授業の継承発展

本教育プログラム採択時の評価の土台となった授業は、各専門分野の基礎能力の育成のための「専門コア科目群」、動きの速い知識基盤社会の中にあって必要とされる学際的分野、新分野、異分野に対応できる知識・能力を培うための「専門横断科目群」、学生の自立的な研究遂行能力や企画・プレゼンテーション能力の育成のための「論文作成科目群」と「キャリア形成科目群」である。これらにおいて、各々の授業の改善、内容の充実を図った。

○顕著な変化と判断する理由

この教育プログラムは22年度が最終年度であり、年度末には「魅力ある大学院教育」イニシアティブ以降の教育成果を自己点検評価し、信頼性の高い検証をすることになっている。従って、現時点で定量的な実績を挙げるのは控えるが、研究成果発表数(国際会議、国内外の学会・研究集会等)、国内外研究実習(共同研究者訪問、研究所訪問等)などから判断して教育研究の活性化が伺える。さらには、教育プログラムに対する学生アンケート結果からも、教育プログラムの取組に対するポジティブな評価を得ている。